

# 横倉山のアカガシ天然林の鳥類相

## -既往の調査事例から-

### 横倉山でのこれまでの鳥類調査は？

- ・環境省の自然環境保全基礎調査等およびモニタリングサイト1000事業で、横倉山の尾根上のアカガシ林が調査地として選定され、これまでに数回調査を実施。
- ・繁殖期(両事業とも)および越冬期(モニタリングサイト1000のみ)で鳥類相が調査されている。調査方法は統一されていない(ルート3km or 1km, プロット2地点or5地点)。
- ・森林性の鳥類調査のため、山麓や水辺は調査対象となっていない。猛禽類や夜行性種は確認されにくい。
- ・鳥類の渡りの特性に注目して、結果を集計した。



横倉山山頂付近のアカガシ天然林

### 調査結果の概要

- ・繁殖期には23～28種、越冬期には8～16種が記録されている(図1. 図2)。
- ・繁殖期は夏鳥の記録が近年少なくなっている(図1)。
- ・越冬期は留鳥が大半を占める(図2)。
- ・繁殖期の優占度上位種は、はシジュウカラ、ヤマガラ、ヒガラなどで、2017年に初めてキビタキが上位種になった(表1)。
- ・越冬期の優占度上位種は、ヒヨドリ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロなどで、大きな変化はない(表2)。



図1. 繁殖期の鳥類の種構成



キビタキ (夏鳥)

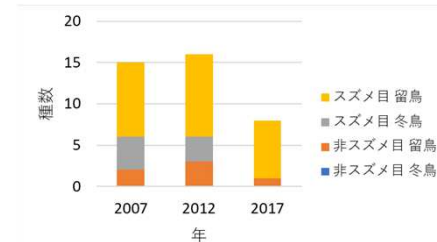


図2. 越冬期の鳥類の種構成



ゴジュウカラ (留鳥)

### 今後の課題と注目点

- ・継続的な調査結果の振り返りが重要。
- ・地域の鳥類相を明らかにするには、他の調査との併用が有効。
- ・夏鳥の減少が継続的な傾向なのか、種ごとに個別に検討する必要がある(表3)。
- ・冬鳥は調査の特性で、群れの出現の有無に結果が影響されやすい(アトリ、マヒワなど)。
- ・外来種の動向に注意(ヒゲガビチョウ、コジュケイ)。
- ・シカの増加やナラ枯れはこれまでのところ見られないが、継続的なモニタリングによって変化を検出できるかもしれない。

順位	2000年	2007年	2012年	2017年
1	シジュウカラ	シジュウカラ	ヤマガラ・シジュウカラ	ヒガラ
2	ウグイス	ヤマガラ		ヒヨドリ
3	ヤマガラ・カケス	ヒガラ	ヒガラ	シジュウカラ
4		メジロ	ヒヨドリ	キビタキ
5	エナガ	ゴジュウカラ	ウグイス	ヤマガラ・メジロ

順位	2007年	2012年	2017年
1	ヤマガラ	エナガ・メジロ	ヒヨドリ
2	メジロ		シジュウカラ
3	ヒヨドリ	ヒヨドリ	ヤマガラ
4	シジュウカラ	ヒガラ	メジロ
5	アトリ	ヤマガラ・マヒワ	ヒガラ・カケス

	2000年	2007年	2012年	2017年
ジュウイチ	○	○	○	
カッコウ				
ツツドリ	○	○	○	○
ホトトギス	○	○		
アカショウビン	○	○	○	○
ヤイロチョウ	○			
クロツグミ	○			○
ヤブサメ	○	○		
キビタキ	○	○	○	○
オオルリ	○	○	○	○



ヤマドリ (留鳥)



コジュケイ (外来種)

佐藤重穂(森林総合研究四国支所)



国立研究開発法人 森林研究・整備機構  
森林総合研究所